

障害児入所支援に関する御意見等

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
社会福祉法人 横浜訓盲院

団体の概要

【社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合】

1. 設立年月日 : 昭和23年8月18日

2. 活動目的及び主な活動内容 :

日本視覚障害者団体連合は、視覚障害者自身の手で“自立と社会参加”を実現しようと組織された視覚障害者の全国組織です。昭和23年(1948年)に結成された、都道府県・政令指定都市における60の視覚障害者団体の連合体で、国や地方自治体の視覚障害者政策一人権、福祉、教育、職業、環境問題等一の立案・決定に際し、視覚障害者のニーズを反映させるため、陳情や要求運動を行っています。

3. 会員数等 : 加盟団体 60団体(令和7年4月1日現在)

4. URL : <http://nichimou.org/>

【社会福祉法人 横浜訓盲院】

1. 設立年月日 : 明治22年9月26日(前身の盲人福音会の発足日)

2. 活動目的及び主な活動内容 :

横浜訓盲院は、家庭事情のある障がい児を家庭的な雰囲気の中で養育する施設です。専門スタッフによる生活支援のほか、一人一人に最も望ましい教育の場を選び、その子の能力を伸ばしてあげられるように支援しています。

3. 会員数等 : 36名(4才~18才) ※職員21名

4. URL : <https://yokohamakunmouin.com/>

障害児入所支援に関する御意見等

【ヒアリングの前に伝えたいこと】

●視覚障害児者が考えていること

- ・ 障害者権利条約の理念「Nothing about us without us(私たちのことを、私たち抜きに決めないで)」が基本であること。障害児者自身が望む生活を実現するためには、障害児者自身が望むことを「選択」できることが望ましい。
- ・ 障害者支援における「地域移行」は、地域の障害児者に対する支援体制が担保されていることを前提とすべき。前提がない状態で、安易に「地域移行」を進めることは望ましくない。また、安心して地域に移行できる状況ではない場合、視覚障害児者の支援に長けている既存の社会資源(施設、人材等)を活用すべき。

●視覚障害児を対象とする障害児入所施設の特徴

- ・ 過去より、盲学校(視覚特別支援学校等)と連携し、教育と日常生活の支援を分業している施設が多い。障害児入所施設では、日常生活の支援を通して、視覚障害児が自立する上で必要とする生活スキルの会得を支援している。
- ・ 現在は、視覚障害児を中心に受け入れる障害児入所施設は殆どない。そのため、障害児入所施設での生活を必要とする視覚障害児は、遠方から入所する施設に引っ越す必要がある。
- ・ 視覚障害児の支援は、視覚障害に特化した専門的スキルが必要とされる。その一方で、慢性的に人手不足が続いており、専門的スキルを持った支援者を確保することが難しく、きめ細やかな支援が行えないことが課題となっている。

●視覚障害に関する注意点

- ・ 乳幼児の時点で視覚障害があるかどうかを判別することが難しい場合がある。そのため、身体障害者手帳を取得しない(取得できない)視覚障害児が一定数存在する。他の障害と重複しているケースも多い。
- ・ 視覚障害児者は、他の障害児者とは異なる支援が必要である。そのため、個別の障害に応じた支援を行うことを前提とした報酬や基準を設定することが求められる。

1. 利用児童の状態像を踏まえ、障害児入所施設での暮らしについて、どのような生活を目指すのか。

② 施設の小規模化に対応した家庭的養育の推進について、③ ケアニーズが高い児童の対応について

- ・ 視覚障害児を中心に受け入れる障害児入所施設は、きめ細やかな支援を行いたいとの考えはあるものの、人手不足の影響により②や③に対応することが難しい。

⑤ 意思決定支援について(障害児入所施設における意見表明の推進)

- ・ 「意見表明の推進」は重要で、国の施策、各施設の支援内容の根幹にすべきこと。「子供の人権」を踏まえた対応が求められる。

⑥ 予防的な障害児入所施設の利用について

- ・ 視覚障害児の親の一部には、様々な理由から障害児入所施設に拒否反応を示す者もいる。こういった者が、安心して障害児入所施設を利用できるよう、施設側のハードル(制度面、印象面)を下げるのが求められている。
- ・ 障害児入所施設は、親と子供との間に一定の距離を置き、その子供にとって必要な支援を与える場である。障害児入所施設が「親と子供のそれぞれが安心して生活するために必要な施設」という認識を高める必要がある。

障害児入所支援に関する御意見等

2. 利用児童の状態像に応じた施設類型の在り方について検討し、整理する。

② 新たな施設類型の創設について(障害児グループホーム(仮称)の創設)

- ・ 障害児グループホーム(仮称)を推進する前に、地域の障害児者に対する支援体制を強固にすることが必要である。

3. 障害児入所施設を利用する児童の家族への支援についてどのように考えるか。

① 家族支援の機能について(段階的な家庭復帰の仕組みについてどのように考えるか。)

- ・ 家庭復帰させることが良いかどうかは、その家族の状況によって大きく異なる。親の状況によっては、親と視覚障害児を離れた方が視覚障害児のためになることもある。一方で、家庭復帰をした方が良い視覚障害児もいる。入所する視覚障害児にとって何が大切なのかを前提に、家族支援の機能の在り方を考えるべき。

4. 障害児入所施設が果たすべき地域支援機能について整理する。

① 障害児及び家族の在宅生活の支援

- ・ ①に示された4つの論点とも、障害児入所施設側の人材不足で対応することが難しい。そのため、施設側の運営体制のサポートを充実させることが先だと考える。専門的な知識を持った職員を配置すること、その職員を配置するための報酬の充実等を行うべき。

② 移行支援について(入所する児童の移行後のアフターケア)

- ・ 視覚障害児の場合、退所後に入所した施設等での支援が満足に行われたい等、退所後の障害児入所施設に様々な相談が寄せられ、アフターケアを行うことが多い。その一方で、障害児入所施設によるアフターケアの充実を行おうにも、人材不足が課題となり対応することが難しい。

5. 障害児入所施設と社会的養護施策との役割についてどのように考えるか。

① 児童養護施設等に対するサポート

- ・ 障害児入所施設側の人材不足により、論点で示された支援を施設側で行うことは難しい。障害児入所施設は、その施設が行うべき業務に特化すべきではないか。
- ・ 英国では、医療機関を拠点に患者とその家族らに対して、早期から気持ちに寄り添った支援やすぐに活用できる支援を行うとともに、福祉・教育・就労等の社会資源へ橋渡しを担う専門家「ECLO(Eye Clinic Liaison Officer)」が活用されている。日本においても、横断的に視覚障害児支援を行う者を派遣する制度を確立することが求められている。

6. その他(③ 措置と契約の対象者の再整理について)

- ・ 視覚障害児を中心に受け入れる障害児入所施設としては措置の方が助かる。措置に一本化することも検討すべきではないか。

参考資料

横浜訓盲院 施設の1日

平日

6:10	・子供たちの起床 着替え、排泄、洗面、整容等の介助や見守りをします。 障がいの状況に合わせて居室の片付けや掃除をします。
7:00	・朝食 食事の介助をしながら一緒に食事をします。
7:30 ~ 9:00	・登校準備と付き添い 各学校の登校時間に合わせて送ります。 ・幼児の日中保育 ・幼児と遊ぶ時間
11:45	・昼食
13:30 ~ 16:00	・子ども達が学校から帰院し始めます。 ・各学校ごとに迎えに行きます。
15:00 ~ 17:30	・おやつ ・入浴 介助が必要な子ども達や幼児が入ります。 ・自由時間 外で遊んだり宿題を見たりします。
17:30	・夕食
18:30	・入浴 年齢の高い児童や見守りや一人で入れる児童が入ります。 ・自由時間 テレビやDVDを見たり、好きなことをして過ごします。
19:30	・幼児から就寝準備 排泄介助、絵本読み、添い寝をします。
21:00	・宿直職員が対応する時間
22:00	・全児童居室へ入り就寝準備

休日

6:40	・起床 幼児には着替え、排泄、洗面を手伝います。
7:30	・朝食
8:30	・自由時間 子ども達と散歩に行ったり遊びます。 レクで外出することもあります(外食、プール、乗り物に 乗る、テーマパークなど)。
12:00	・昼食
15:00	・自由時間 ・おやつ ・入浴 ・自由時間
17:30	・夕食
18:30	・入浴 年齢の高い児童や見守りや一人で入れる児童が入ります。 ・自由時間 テレビやDVDを見たり、好きなことをして過ごします。
19:30	・幼児から就寝準備 排泄介助、絵本読み、添い寝をします。
21:00	・宿直職員が対応する時間
22:00	・全児童居室へ入り就寝準備

英国のECLO (Eye Clinic Liaison Officer) について

●ECLO の人数と種類

2023年8月現在で、177名のECLO が活躍している。そのうちの約半数が視覚障害のあるECLO である。ECLO の多くは、RNIB が雇用しており132名に上る。残りの45名のECLO は、国民保健サービス(NHS)に雇用されている。ECLO は、業務形態により、大きく2種類のECLO に分かれる。1つは、病院に勤務するECLO である(以下、病院ECLO)。医療機関を拠点として活動しており、数は少ないが小児病院に小児を専門とするECLO が勤務していることもある。2つ目が、在宅勤務を基本とし、地域内の複数の病院を担当するECLO である(以下、Locum ECLO)。LocumECLO は、病院ECLO が休暇を取る際にサポートするなど、常に連携しながら活動を行っている。この病院ECLO とLocum ECLO の連携が、ECLO の活動の幅を広げることを可能にしているといえる。

●ECLO の役割と仕事

ECLO の役割は、見えにくさで困っている患者とその家族にすぐに活用できる支援の情報提供と気持ちに寄り添った支援を行い、個々人のライフステージに合った社会資源(リソース)や支援先等に橋渡し(リンク)することである。ECLO の中には、リハビリテーションの専門家や心理の専門家として活躍していた経歴がある者もいるが、ECLO として活動している限りは、知識や技術があろうとも、リンクワークに徹し、専門的なことはリンク先の専門家をお願いする。決して、ほかの職種の領域に踏み込まないように徹底している。ECLO が役割を果たすために行っている仕事は、主に4つある。

- (1) エモーショナルサポート & プラクティカルサポート
- (2) リンクワーク
- (3) アドボカシー
- (4) CVI(視覚障害証明書)登録のメリットの説明と登録に係る事務作業

出典 「視覚障害者の早期相談支援のためのリンクワーカー育成に係るガイドライン作成事業 報告書」
<http://nichimou.org/all/news/other/240806-jouhou-1/>

